

はじめに

1918年に第一次世界大戦が終わって1929年に世界恐慌が起こり、急速に悪化したドイツ経済の救世主としてアドルフ・ヒトラーが登場して第二次世界大戦が起こりました。

1939年から1945年まで第二次世界大戦（日本はアメリカとの太平洋戦争）ではドイツ・イタリアと三国同盟を結びましたが、アメリカ・イギリス・フランス・中華民国・ソビエト連邦を中心とした連合国にはまったく歯が立たず、1945年敗戦で日本は焦土となり昭和天皇は神から象徴になりました。

敗戦後はダグラス・マッカーサーによる事実上の支配が続き、すべてを失った日本の国民は必死に立ち上がりその後の高度経済成長へとつながっていきました。

1955年から1973年までは年平均10%の驚異的な高度経済成長を果しました。

私が生まれた1954年から物価がついたときには日本は年々豊かになって、人々はわが世の春を謳歌していました。

しかし、いいことは続かないもので1990年にはバブルが崩壊して底なしの不況になり、現在もその状況は続いています。

私の年代は悲惨な戦後、高度経済成長、バブル崩壊後の不況を経験した稀有な世代といえます。今回この本を書くにあたり、この貴重な経験を『昭和・平成・令和という時代』として書き記してみました。昭和生まれの人は過去のノスタルジーに縋ろうとし、平成生まれの人はブラック企業などで疲弊し、令和生まれの子供さんは過保護で生まれたときからスマートフォン時代という環境で育っています。

こうして書いてみますと、高度経済成長期を経験した世代とバブル崩壊後の世代間ギャップの大きさを痛感しました。

「専業主婦」という言葉は高度経済成長期には当たり前でしたが、平成以後はほぼ死語になっています。「お見合い結婚」は現在のZ世代（デイスるつもりはないので「Z世代」を代わりに使ってください）などには知る由もないでしょうが、現在のマッチングアプリの昔のバージョンと違っていただくとわかりやすいかもしれません。

かつては当たり前だった終身雇用制度も現在はなくなり、転職は常識となっています。

今の現役世代のお気の毒なところは社会保険料を天引きされ、知らない間に給料が減らされていることです。

社会保障制度の目的は戦後では生活困窮者の支援でしたが、平成以降は少子高齢化の対策が主な目的になっています。健康保険料率は昭和22年には3〜6%でしたが、現在は介護保険料と合わせて10%以上になっています。

経済的には非常に厳しい時代になりました。

「足るを知る者は富む」と中国の思想家の老子は申していますので、今の生活を大事にして気持ち豊かになることが何よりも肝要だと思います。



ケシ